白川わくわくランドニュース

第21号

発行
●白川流域住民交流センター
（白川わくわくランド）
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX（096）346-5454
ホームページアドレス
http://www.wakuwaku-land.com
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

中松小学校六年 学級PTA活動 実践報告

『自立への旅たち』

～可愛い子に旅をさせる（白川河口から中松小まで歩き通す）～

小学校最終学年の夏休みを迎える頃、中松小学校では六年生の子どもたちと先生と保護者の方々との間で「小学校最後の夏の一番有意義な活動」について話し合いがなされた。いろいろな活動計画が提案されたが、「白川河口から中松小学校まで川に沿って歩いてみよう」ということに決定した。

「カニみつけたよ」（河口で）

「この堰から田んぼに水を引くんだ」（瀬田堰で）

【期　日】
平成十七年
七月三十日（土）～八月一日（月）…二泊三日

【参加者】
中松小六年児童十四名　保護者　担任

【日　程】
●三十日　白川河口―白川わくわくランドー宇留毛公民館泊
●三十一日　瀬田駅横生活改善センター泊
●一日　中松小学校　着

「さあ、今から南阿蘇村にはいるぞ」（ダム工事用引込み道路で）

この学級PTA活動の目的（いくつかを紹介します）

●三日間、我が家を目指し、歩き続ける経験を通して、逆境に耐える精神力や忍耐の基礎を養うとともに、目的を完遂した充実感・達成感を味わい、今後の生活に生かす。

●家族と離れて生活をすることを通して、家庭の温かさや家族の支えを再認識するとともに、自立への心構えの基礎を養う。

●白川の河口から源流に向かい川に沿って歩きながら、それぞれの暮らしや産業、景観を見聞することで、自分たちの住む地域とのつながりや違いを体験する。

●一つの川を共有する人々の暮らしを知ることを通して、河川環境に対しての認識を深めるきっかけにする。

（後略）

三日間歩いての感想

中松小学校 6年担任　時松俊英先生

「小学校最後の夏休みに思い出に残る活動をしたい」という思いから、白川が有明海と出会う地点から自分たちの住む白川上流まで歩くことにしました。

事前の計画では、余裕を持って3日間歩く予定でしたが、実際歩いてみると阿蘇では珍しい生き物（ハゼやドジョウ、フナ、クマゼミなど）や植物（レンコン畑やガマの穂など）に気を取られたり、予想以上の暑さにバテたりして、宿泊地到着はいつも遅い時間になってしまいました。

そんな中、見ず知らずの私達を笑顔で迎えてくださったり、心のこもった差し入れを用意していてくださったり、雨の中、白川沿いを一緒に歩いて堰や洪水のことを話してくださったりしたそれぞれの地域の方々の温かさや親切が心にしみました。

この体験を通して、人に親切にする行為の素晴らしさや河川環境を守ることの大切さについて考えるきっかけになればと思っています。「白川沿いには、やさしい人がいっぱいいた。」と実感できたことが何よりの収穫でした。

河口からずっと歩いて行ったので白川のことがよくわかりました。わくわくランドのビデオで見せてもらったところが行く途中にありました。白川のことが分かって楽しかったです。

先生と子供たち、皆、元気に帰ってくることが出来ました。学校が見えたら一心行の坂を転げるように走って帰ってきました。途中、たくさんの方の暖かいお心配りで苦しくても楽しくがんばっていました。きっと一生の思い出になると思います。
（白川わくわくランドでも保護者の方が子供たちの到着を「今か今か」と待っておられました。その保護者からの便り）

白川の橋― ⑰
大甲橋

河口から数えて17番目の橋。橋長は106.00m、総幅35.00mで、上・下流にそれぞれ4.50mずつのゆったりとした歩道がある。歩道中心部の踊り場的な場所からの上・下流の眺めがすばらしい。川の流れと・両岸の緑と山や市街地の遠景が心和ませる。

現在、治水の面から明午橋・大甲橋区間の左岸拡幅工事の準備が進められているが、「緑の区間」整備計画の検討が白川流域住民委員会の中で重ねられている。「森の都くまもと」のシンボルとして市民に親しまれる水と緑の拠点づくりが進められている。

左岸橋台は、拡幅を見越して川岸より奥まった緑地帯の中にある。

〈安己橋より〉（市電も通る）

涼を求めて…

岩戸神社とその周辺

白川源流の一つに岩戸神社からの渓流がある。立野の北向山原生林から西に向かっての白川左岸一帯は豊かな緑に包まれている。その一角、山の中腹にこの神社はある。

夏の一日、源流を求めて岩戸神社を目指した。

瀬田堰を左に見ながら白川左岸を山手に向かうと、木々の中に鳥居が建っている。そこが、岩戸神社への登り口。奥には大津町により新しく駐車場が設置されているが、その脇にも、山水の美しい流れがあった。

残暑の厳しい日であったが、目的地まで太陽の暑さに悩まされることはなかった。

沢を左下に見ながら山を登ると、途中にしぶきを上げて流れ落ちる小さな滝を見ることができる。

雨の少ない時期であったが、十分な水量を集めていた。

鳥居横の標柱に岩戸神社(飛仏)創建永正四年(一五〇七年)とあり、次のような説明文がある。

「渓谷を登っていくと、断崖絶壁から落ちる清流の下、深山・幽谷の中にあります。菊池神社誌によると、御祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)と少彦名命(すさなひこなのみこと)の二祭です。また神社は、「飛仏」ともいわれ、神殿に阿弥陀三尊や僧形座像がまつられ、神仏習合の形を残しています。」

断崖絶壁から流れ落ちる水は、霧状のしぶきになって霞む。崖下には、しめ縄が張られ神域となっている。

この水が沢を下り白川に流れ込む。白川の源流の一つに数えられる所以である。

神社は、柱状節理の崖下に雨風をさけるように建てられている。

川の豆知識.6　捷水路（しょうすいろ）

もともと川は、平野では蛇行していることが多い。このような蛇行部分では、洪水時、水があふれ出たり堤防決壊が起こったり、周囲に被害が出やすい。そこでこのまがりくねった川の部分を切りはなし、まっすぐな人工の川につけかえる、これを捷水路と言う。

白川流域でも、阿蘇平野の黒川や下流小島橋付近は、昭和の時代にショートカットされたものであり、古くは、加藤清正の時代、熊本城付近の整備がなされている。

小島橋附近

黒川

白川わくわくランド夏休み寺子屋

白川わくわくランドでは、夏休みに2つの寺子屋を開催しました。

わくわくお天気教室

平成17年7月22日（金）　参加者30名
時間:13:00～16:00

夏休みに入った最初の金曜日、熊本地方気象台でわくわくお天気教室を行いました。今年で３回目。毎日の生活に関連の深い気象について子どもたちに少しでも、興味を持ってもらえるように、気象台の仕事を見学したり、気象の話を聞いたり実験をしたりしました。最初に施設の見学と機器の説明を受けます。

「このひとつひとつのデーターの積み重ねによって天気予報を組み立てていくんだよ。24 時間交代で監視しています。」屋外にはたくさんの観測機器がありました。

子どもたちが楽しみにしていた実験です。

「雨粒ってどんな形か知ってる？」一人ずつ交替で実験してみます。「わぁ～雨粒っておまんじゅうの形（◠）で落ちて来るんだね。」自分で体験するとよくわかるね。さあ、自由研究のヒントになったかな？

（雨粒実験）

（竜巻実験）

（ペットボトルを使って雲を作る実験）

〈参加した子どもの声〉
- 近年の予測はスーパーコンピューターが行っているが、やはりズレてくるので、誤差は人間が調整しているというのは、すごいと思いました。
- 雲の種類がわかって良かった。家でも見てみようと思った。
- 色々な機械があって、すごく頑張ってみんなニュースを届けているんだなと思いました。など

探検黒川源流

平成17年8月4日（木）　参加者13名
時間:9:00～16:30

８月の寺子屋は、黒川の支流を訪ねて紅地川へ行きました。二重の峠から参勤交代の石畳を下り、昔の旅の様子を想像しながら歩きました。

紅地川では、子ども達は冷たい水に歓声を上げながら大はしゃぎ。下流にはいないサワガニや、水生生物を見つけたり、水質検査もしました。気温 25℃、水温 19℃、この日熊本市内は 36℃天然のクーラーの中で水遊びを満喫しました。

帰りに、国造神社を通り手野の湧水で阿蘇の水の恵みをいただいて、おみやげに持ち帰りました。

白川わくわくランド 寺子屋案内

阿蘇・白川の自然と人々の営み
～湧水・滝・魚道・石橋～

平成17年10月15日（土）
【時　間】9:00～16:30
【場　所】南郷谷
【対　象】高校生以上
【人　数】30名
【参加費】1200円

星座観察会

平成17年12月2日（金）
【時　間】18:00～21:00
【場　所】西合志町民図書館天文台
【対　象】小学4年生以上
【人　数】30名
【参加費】100円

白川中流域探検

平成17年11月12日（土）
【時　間】9:00～16:30
【場　所】立野周辺
【対　象】小学4年生以上
【人　数】15名
【参加費】100円

【お申し込み・お問い合わせ】
白川わくわくランド
〒860-0854 熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX　096-346-5454
【主催】白川流域住民交流センター（白川わくわくランド）

http://www.wakuwaku-land.com
wakuwaku@wakuwaku-land.com